

6-3 総合的な放課後子どもプラン推進シンポジウム

①開催要項、案内文書

総合的な放課後子どもプラン推進シンポジウム開催要項

テーマ「～期待される放課後子ども教室(「夢」と「自信」をもたせる教室)のあり方～」

1. 概要・目的

子どもを取巻く急速な環境変化の中で、特に家庭や地域の子育て機能と教育力の低下が問題視される一方、放課後の子どもたちが安全で安心して過ごせる活動場所の確保を図ることが課題とされてきた。すなわち、地域教育力の再生を求める声が高まってきた。

これを踏まえて、昨年度から文部科学省と厚生労働省が連携の下、地方公共団体が事業主体となって、総合的な放課後対策として「放課後子どもプラン推進事業」をスタートさせ、全国一斉に展開することとなった。

当雲南市においては、行政を主体に「雲南市放課後子どもプラン」を開設し、子どもたちが健やかに育つ環境づくりを家庭・学校・地域が一体となって進めている。

また、昨年度から文部科学省の調査・研究モデル事業としてスタートした「市内文化体育施設利用「うなん元気っ子わくわく教室」は、週末・長期休業を利用した放課後子ども教室として活動している。

こうした中で、〔平日型〕放課後子ども教室と〔週末型〕放課後子ども教室の取り組んできた事業の事例を検証しながら、成果と課題について考え、今後の放課後子ども教室の展望と方向性を探ってみる目的で、シンポジウムを開催するものです。

2. 内容

(1) 基調講演・・・60分

講師 清國祐二氏 (香川大学生涯学習教育研究センター長・教授)
演題 「放課後子ども教室に求められること」

(2) 事例発表・・・30分

事例1 「土・日 休日の放課後子ども教室の取組みについて」
株式会社キラキラ雲南 企画員 原 恵介 氏
事例2 「地域の特色を生かした放課後子ども教室」
田井っ子広場 事務局 品川宣子 氏

(3) インタビュー・ダイアログ・・・80分

表題 「平日型と休日型放課後子ども教室の役割と連携」
〔コーディネーター〕
雲南市教育委員会教育長
〔アドバイザー〕
香川大学生涯学習研究センター長・教授
〔登壇者〕
雲南市学校支援地域本部統括コーディネーター
田井っ子広場事務局
PTA連合会会長

3. 講師プロフィール

清國祐二 教授 (香川大学生涯学習教育研究センター長)

大分県国東市生まれ。広島大学教育学部教育学科卒。平成2年から2年間、大分県立別府青山高等学校で英語教諭をされた後、島根大学教育学部で社会教育学を9年間教える。その後、英国ランカスター大学客員研究員、香川大学生涯学習研究センター助教授を経て、教授となり、現在は同センターの所長を併任されている。

4. 開催期日・会場

日時 : 平成20年2月11日(水・祝)
午前8:30～開場 午前9:00～開会

【日程】

8:30	9:00	9:15	10:15	10:45	10:55	12:15
受付	開会 行事	基調講演	事例発表1・2	休憩	インタビュー・ダイアログ	

会場 : 木次経済文化会館チェリヴァホール 大会議室

5. 対象

児童・生徒の保護者及び教職員、地域コーディネーター
放課後子ども教室関係者(子どもの居場所づくり関係者)
※その他、一般の皆様参加もお待ちしております。

6. 入場

無料 ※申し込みが必要です。

7. 主催等

主催 雲南市文化施設利用放課後子ども教室実行委員会
共催 雲南市教育委員会
後援 島根県教育委員会 雲南市校長協議会 雲南市PTA連合会
雲南市スポーツ少年団連絡協議会

8. お問い合わせ

雲南市加茂町宇治 303
雲南市加茂文化ホールラメール
TEL 0854-49-8500 FAX 0854-49-6200

雲南市木次町里方 55
雲南市経済文化会館チェリヴァホール
TEL 0854-42-1155 FAX 0854-42-1251

平成21年1月17日

うんなん元気っ子わくわく教室

講師・コーディネーター・ボランティアスタッフの皆様

雲南市文化体育施設利用
放課後子ども教室実行委員会
委員長 多 久 博

「総合的な放課後子どもプラン」推進シンポジウムの開催について(ご案内)

新春の候、皆様にはますますご清祥のこととお慶び申し上げます。平素は、雲南市文化体育施設利用放課後子ども教室の取組みについて、ご理解とご協力をいただき厚く御礼申し上げます。

さて、雲南市内の文化・体育施設を開放、利用して開設しております**放課後子ども教室「うんなん元気っ子わくわく教室」**は、文部科学省の放課後支援モデル事業として2年目を迎えた今年も《学校、家庭、地域、行政の連携・協力による『夢・自信』をもたせる放課後子ども教室》をコンセプトに、土・日・祝日において、雲南市内の子どもたちにその特色を活かした様々なプログラムを提供するものです。

その中で皆様方には、子ども達と直接ふれあい指導していただく講師・コーディネーター・ボランティアスタッフとして重要な役割を担っていただき、子ども達が市内文化体育施設や屋外で楽しく学び遊べる教室づくりにご尽力いただいておりますこと、重ねて御礼申し上げます。

こうした中で、本実行委員会では取り組んできた事業の事例を検証しながら、「平日型と週末型放課後子ども教室の役割と連携」について考え、今後の活動の展望を探ってみる目的で、シンポジウムを開催いたします。

つきましては、別紙チラシのとおり開催いたしますので、ご参加いただきますようご案内いたします。

記

1. 日 時 平成21年2月11日(水・祝) 午前9時～午後12時15分
2. 場 所 雲南市経済文化会館チェリヴァホール 大会議室
3. 内 容 別紙チラシのとおり
4. 参加方法 別紙チラシ裏面の申込欄にご記入の上、2月6日(金)までにお申し込みください。

雲南市文化体育施設利用放課後子ども教室実行委員会事務局

- 雲南市加茂文化ホールラメール
雲南市加茂町宇治 303 TEL 0854-49-8500
- 雲南市経済文化会館チェリヴァホール
雲南市木次町里方 55 TEL 0854-42-1155

総合的な放課後子どもプラン推進シンポジウム

テーマ

～期待される放課後子ども教室(「夢」と「自信」をもたせる教室)のあり方～

期日・会場

平成 21 年 2 月 11 日 (水・祝)

9:00~12:15

<AM8:30開場>

木次経済文化会館チェリヴァホール
(大会議室) ◇JR木次駅前

2月6日(金)から2月11日(水)まで、チェリヴァホール1階ロビーにて、うんなん元気っ子わくわく教室の活動写真や教室で制作した作品などの展示を行います。ぜひご覧になってください。お楽しみに!!!

対象

児童・生徒の保護者及び教職員、地域コーディネーター
放課後子ども教室関係者(子どもの居場所づくり関係者)
※その他、一般の皆様の参加もお待ちしております。



申込について

◆参加は無料です。

裏面の申込欄に必要事項をご記入のうえ2月6日(金)までにお申し込みください。

目的

子どもを取巻く急速な環境変化の中で、特に家庭や地域の子育て機能と教育力の低下が問題視される一方、放課後の子どもたちが安全で安心して過ごせる活動場所の確保を図ることが課題とされてきた。すなわち、地域教育力の再生を求める声が高まってきた。

これを踏まえて、昨年度から文部科学省と厚生労働省が連携の下、地方公共団体が事業主体となって、総合的な放課後対策として「放課後子どもプラン推進事業」をスタートさせ、全国一斉に展開することとなった。

当雲南市においては、行政を主体に「雲南市放課後子どもプラン」を開設し、子どもたちが健やかに育つ環境づくりを家庭・学校・地域が一体となって進めている。

また、昨年度から文部科学省の調査・研究モデル事業としてスタートした「市内文化体育施設利用「うんなん元気っ子わくわく教室」は、週末・長期休業を利用した放課後子ども教室として活動している。

こうした中で、〔平日型〕放課後子ども教室と〔週末型〕放課後子ども教室の取り組んできた事業の事例を検証しながら、成果と課題について考え、今後の放課後子ども教室の展開と方向性を探ってみる目的でシンポジウムを開催するものです。

講師

清 國 祐 二 氏(香川大学生涯学習教育研究センター長・教授)

大分県国東市生まれ。広島大学教育学部教育科卒。平成2年から2年間、大分県立別府青山高等学校で英語教諭をされた後、島根大学教育学部で社会教育学を9年間教える。その後、英語ランカスター大学客員研究員、香川大学生涯学習研究センター助教授を経て、教授となり、現在は同センターの所長を併任されている。

■主催/雲南市文化体育施設利用放課後子ども教室実行委員会 ■共催/雲南市教育委員会

■後援/島根県教育委員会、雲南市校長協議会、雲南市PTA連合会、雲南市スポーツ少年団連絡協議会

日程及び内容

8:30 9:00 9:15 10:15 10:45 10:55 12:15

受付	開会 行事	基調講演 (60分)	事例発表 (30分)	休憩	インタビューダイアログ (80分)
----	----------	---------------	---------------	----	----------------------

- (1) 基調講演 講師：清國 祐二 氏
演題：「放課後子ども教室に求められること」
- (2) 事例発表 事例1「土・日・休日の放課後子ども教室の取組みについて」
事例2「地域の特色を生かした放課後子ども教室」
- (3) インタビューダイアログ
テーマ 「平日型と休日型放課後子ども教室の役割と連携」
[コーディネーター] 雲南市教育委員会教育長
[アドバイザー] 清國 祐二 氏 (香川大学生涯学習研究センター長・教授)
[登壇者] 雲南市学校支援地域本部統括コーディネーター
田井っ子広場事務局
雲南市PTA連合会会長

◆インタビューダイアログとは…
コーディネーターからのテーマ性を持った問いかけをきっかけに登壇者と参加者との
意見交換や質疑応答を行いそのテーマについて考えるディスカッションの方法です。

F A X 申込欄

総合的な放課後子どもプラン推進シンポジウム 出席申込書

〈申込締切は2月9日(月)です。 必要事項をご記入のうえチェリヴァホールまでFAX、郵送
あるいは同様の内容をお電話にてお申し込みください。〉

【お問合せ・申込先】

木次経済文化会館チェリヴァホール (住所：〒699-1311 雲南市木次町里方55)

(F A X : 0854-42-1251 T E L : 0854-42-1155)

市町村名 関係機関名			
申し込み担当者	氏名	電話	
参 加 者	氏 名	所 属	備 考

②基調講演要旨

香川大学生涯学習教育研究センター長・教授 清國 祐二 氏

放課後子ども教室に求められること

総合的な放課後子どもプラン推進シンポジウム

2009年2月11日

香川大学生涯学習教育研究センター

清國 祐二

はじめに

地域ぐるみのあいさつ運動

- ある母親の発言

「知らない大人に挨拶はさせません！」

→ 地域社会の変貌ぶり

公園で遊ぶ親子の姿

- 携帯の画面ばかり見ている親の姿

貴重な子どもとの時間が…

→ 家庭への不安も募る

子どもの成長に必要なもの
阻害するもの

子どもに今、必要な居場所とは？

- 「熱中」
時間を忘れて過ごせる場
- 「緊張」
ドキドキ感のある遊び・関わりの中
- 「受容」
自分の存在を確認できる場
- 「達成」
乗り越えることで喜びを感じられる場

ゲームは全機能を備えている！

- でもそこに「人」は要らない…
そこからしか切り崩せない

ゲームの何が問題か？(1)

- 社会的な動物になれない
人は関わり合って生きる動物
→社会化されない＝人間の危機
- すべての人間に弊害があるのか？
ソーシャルスキルの問題
→オプション化できれば大丈夫



子ども教室に必要な視点



楽しく遊べる放課後の保障

- **集団で過ごせる地域に**
 - ・ 少子化で子どもの遊びが縮小
 - ・ 子どもは子どもの中で子どもに
- **遊びにはルールがある**
 - ・ 社会性を育むことが必要
 - ・ 「楽しさ」は見つけるもの



子どもたちの体験を豊かに

- **自分にあった活動に出会える**
 - 好きな活動を見つける喜び
 - やってみると案外楽しい
- **友だちと体験できることが大事**
 - 活動の楽しさが倍増
 - 競い合ったり、助け合ったり



子どもにとって経験は大切

- 豊かな発想は経験が生み出す
 - ・ 「型」から「型破り」へ
 - ・ 発想は「経験の豊かさ」による
- 夢や将来は子ども時代に
 - ・ 一流の理系人は？
 - ・ 子どもの中に「残るもの」を



地域のボランティアの存在

- 先生でも親でもない
 - ・ ゆったりと、余裕をもって
 - ・ チャレンジも可能（←危険回避）
- 多様な人との関わり
 - ・ いろんな人がいることがよい
 - ・ 物分かり ← いいだけでは駄目





おわりに

敢えて、子どもは「社会の子ども」です

- 抱え込みで社会はよくなる
多くの「関わり」が子どもを育てる

子どもは未来そのものです

- 命の継承のシンボルとしての子ども
未来に責任を感じさせる存在

「親社会」での成長も大切です

- 多様な価値観の中で揉まれる経験
「お世話」「お互い様」

「還る場所」をつかって欲しい

- 私たちに必要な「原風景」
原風景の大事なひとつ「家庭」
「世話」と「迷惑」のころ
- 地域にも「還る場所」を
「育ててもらった」という感覚を
大人になって成長できる場

＜還る場所をつくるのは私たちです＞

③事例報告要旨

i) 実行委員会 原 恵介 氏

総合的な放課後子どもプラン推進シンポジウム テーマ「期待される放課後子ども教室のあり方」

事例1

「土・日 休日の放課後子ども教室の取組みについて」



株式会社キラキラ雲南 企画員 原恵介

背景と必要性

◆学校外における子どもたちの「自然体験」「社会体験」「ボランティア活動」は貴重な教育活動であり、このような体験活動を実施するには、「適切な場所」「指導者」「多様な活動プログラム」が必要である。

◆地域社会による「学校支援」が必要である。

◆雲南市では総合的な学習の時間を核とした「夢発見プログラム」が展開されている。今、子どもたちに求められているプログラムは「子どもたちが夢と自信を持ちエネルギーが蓄積されるようなプログラムである。

平成20年度雲南市文化体育施設利用放課後子ども教室 「うなんん元気っ子わくわく教室」の目的・テーマ

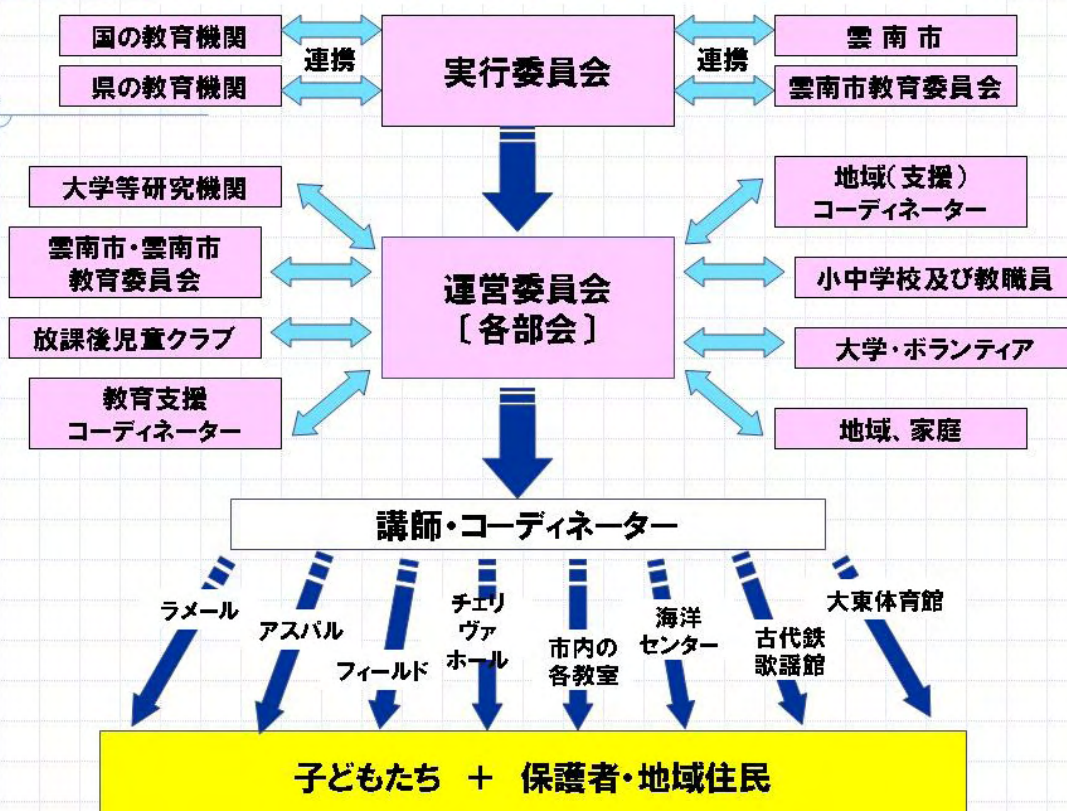
- ◆「感(性)育」「歩(行)育」「健(康)育」「徳育」
+「木育」をキーワードに、子どもたちの「思考力」
「判断力」「表現力」を一層深めることができる
体験活動の「場」を提供する
- ◆「平日型」と「休日型」の放課後子ども教室の果た
す役割を明確にし互いに連携する
- ◆市内全中学校区に設置されている「学校支援地域
本部」との連携・協力

本年度の事業のテーマ

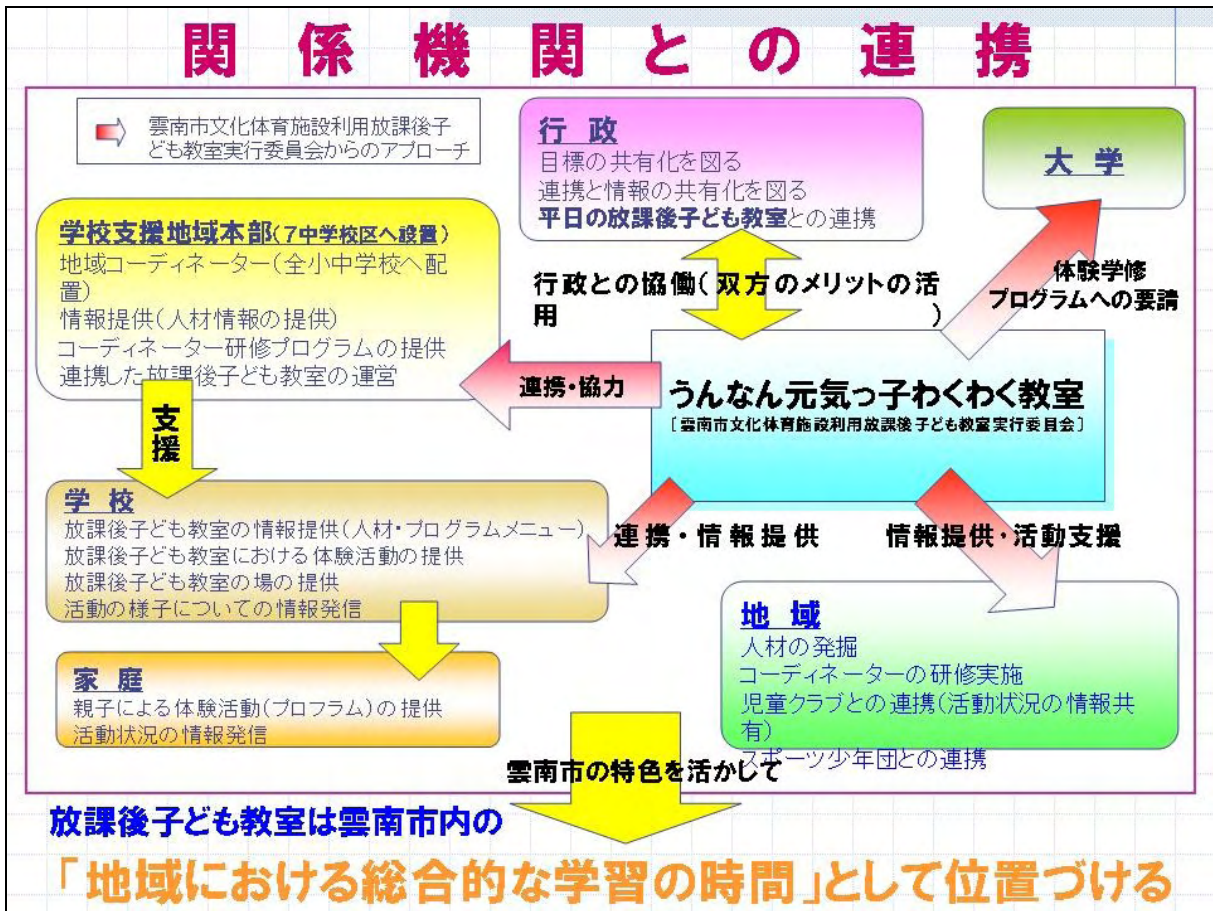
「夢」と「自信」をもたせる放課後子ども教室

～学校、家庭、地域、行政の連携・協力による魅力あるプログラム展開～

機構概念図 雲南市文化体育施設利用放課後子ども教室



関係機関との連携



<p>平成19年度「うなんん元気っ子わくわく教室」の取組み</p> <p>実施箇所数・・・市内社会教育施設(文化施設・体育施設等)6施設を中心にして</p> <p>活動概要</p> <ul style="list-style-type: none"> ○実施日 主に休日(土日及び長期休業) ○活動内容 スポーツ、音楽、ミュージカル、ダンス、制作活動等 延べ347教室 合計4400人の参加 約1,500人のボランティアスタッフが協力 ○活動の成果 ・体験活動としての場の充実と自ら選択する力の育成 ・学校を超えた交流 ・文化や体育などの専門的プログラムを楽しみながら体験できた。 ○課題 ・学校・PTAとの連携のあり方 ・周知の方法 ・参加者の固定化 ・開催場所の隔たり (合併のスケールメリットを生かした開催) ・運営体制 	<p>平成20年度 重点プログラム</p> <ul style="list-style-type: none"> ○質の高いプログラムメニューの提供 <ul style="list-style-type: none"> ・自然体験プログラム ・親子体験プログラム ・アーティスト・アスリート等本物体験プログラム ・特別に支援を要する子どもたちに対するプログラム ・古民家宿泊体験 ・楽しく学ぶ学習支援 ○講師・コーディネーター・安全管理員の研修による資質向上 <ul style="list-style-type: none"> ・コーディネーター研修会の実施 社会教育の理解・スキル向上 ・講師・コーディネーター・安全管理員の情報交換の場づくり文化施設内に拠点場所を設置 ○多様な場所を活用したメニューの実施とボランティア体制の充実 <ul style="list-style-type: none"> ・出前によるプログラムの実施 ・島根大学の学生の協力(1000時間体験学修プログラムへの要請) ○参加者への周知の工夫 <ul style="list-style-type: none"> ・携帯電話(QRコード)の活用 ・コールセンターの活用 学社融合重点プログラム <ul style="list-style-type: none"> ○学校と連携したプログラムメニューの提供 <ul style="list-style-type: none"> ☆平和と人権 永井隆博士の生涯を描くミュージカル上演 ☆世の中のしくみと勤労 農業体験と販売体験 ☆歴史と文化 古代体験プログラム、匠探訪 ☆生活リズムと「食」 食育講座 野外調理体験 等 ○教職員の希望するプログラムの導入
<p>雲南市の学校教育・社会教育が融合した取組</p> <p>『夢発見プログラム』(総合的な学習の時間を活用してのキャリア教育推進プログラム) ふるさとの人・もの・ことを活用したプログラムの実施(平成20年度)</p>	<p>プログラムメニューの共有化と情報連携</p>

施設を有効利用した教室の開催

文化ホールラメール
チェリヴァホール

地域スポーツの
交流の場

大東公園市民体育館

スポーツも文化
もでき多様的

文化体育館アスパル

音楽や文化
活動が充実

出雲神楽など
歴史を伝える

古代鉄歌謡館

スポーツ施設
夏はプールも

海洋センター

参加者への呼びかけ(広報の手段)

- ◆プログラムの配布
(毎月、学校全児童・生徒を対象)
- ◆携帯電話(QRコード)の活用
- ◆ホームページの作成
- ◆ケーブルテレビの活用(文字放送)



科学の教室



◆ボクシングロボット工作教室

◆ライトプレーン工作教室

◆モデルロケット教室

◆潜水艦工作教室

木工教室



◆木製椅子づくり教室

◆動くおもちゃと
紙コマづくり教室

◆新年マイ「箸」づくり教室

親子料理教室



◆お菓子づくり教室

◆家族でつくるお正月料理教室

◆冬野菜を使った料理教室

スポーツ体験教室



◆3B体操教室

◆ゲートボール教室

◆カローリング教室

スポーツ少年団・部活動交流教室



- ◆わくわく☆三瓶にGO！
- ◆ドイツユースとスポーツしよう
- ◆中学生が指導するミニバスケット教室

出前教室



- ◆忍者雲南の町を走る
- ◆キョロパスを使って雲南市をまわるバスツアー
- ◆キッズバイクチャレンジ

アスリート本物体験教室



- ◆中村真衣選手水泳教室
- ◆伊藤国光監督陸上競技教室
- ◆島根三洋ソフトボール教室

アーティスト本物体験教室



- ◆NAGISA馬頭琴鑑賞教室
- ◆平家物語特別舞台公演

親子体験教室



- ◆わくわくスキー教室
- ◆秋の遠足「巨大迷路とみかん狩り」
- ◆親と子のふれあいキャンプin雲南

農業体験・販売体験教室



- ◆古民家1日満喫教室
(農業体験)
- ◆わくわく夏祭り
(販売体験)

平和と人権を学ぶ教室



- ◆ららら・オペレッタ
永井隆博士平和賞で
「命・未来・私たちの願い」
のミュージカル発表

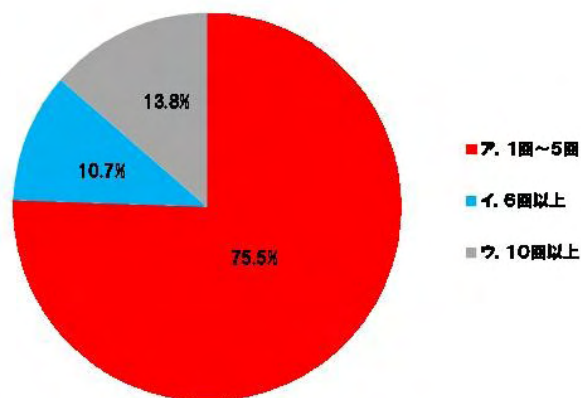
歴史と文化を学ぶ教室



- ◆ウォーキングマップを作ろう
- ◆神楽鑑賞教室

うなんん元気っ子わくわく教室は
「総合的な学習の時間」として活動している

問. あなたは、「うなんん元気っ子わくわく教室」にこれまでに何回参加しましたか？



アンケート結果(雲南市内小学生)

問. あなたにとって「うなんん元気っ子わくわく教室」は、どのような教室であってほしいですか？(複数回答可)

ベスト5

- | | |
|---------------------------------|-------|
| 1. 友だちと一緒に楽しく遊べる教室 | 33% |
| 2. 学校ではできないことや得意なことを、上達させるための教室 | 24% |
| 3. 自分の好きなことや得意なことを、上達させるための教室 | 12.4% |
| 4. 初めての発見や、色んなことを教えてくれる教室 | 11.4% |
| 5. 休みの日に友達や家族の人たちと一緒に活動できる教室 | 10.3% |

問. 「うなんん元気っ子わくわく教室」でどんなことをしてみたいですか？(複数回答可)

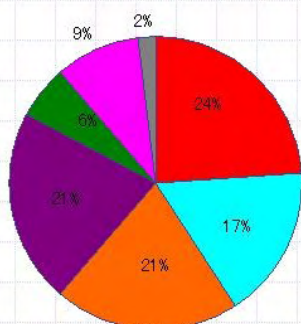
ベスト5

- | | |
|-----------------------|-------|
| 1. いろいろなスポーツをやってみたい | 23.8% |
| 2. 工作や実験をしてみたい | 19.6% |
| 3. 料理やおかし作りをしてみたい | 17.7% |
| 4. いろいろな映画や人形劇をみたい | 13.4% |
| 5. 雲南市内の色んなところへ行ってみたい | 9.7% |

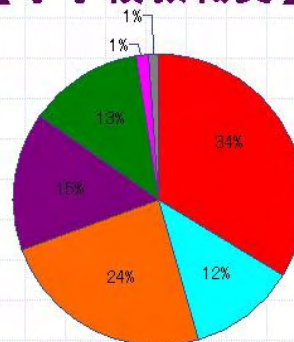
アンケート結果

問. これからの「うなん元気っ子わくわく教室」に期待することは何ですか？(複数回答可)

【小学校保護者】



【小学校教職員】



- ◆ 平日の放課後子ども教室や児童クラブとの連携を深め地域で子どもを育てる体制作り
- ◆ 学校や地域コーディネーターと連携・協力しながら内容の充実した教室の開催
- ◆ 体験活動から地域の魅力を再発見できる「生きる」を育てる教室の開催
- ◆ スポ少や塾で週末忙しい子どもたちも参加できる内容や時間帯の教室
- ◆ 掛合地区・吉田地区を始めとした市内全域への出前教室
- ◆ 特にない
- ◆ その他

まとめ 「活動の成果」

〔直接的な成果〕

- ① 楽しく遊びながら学ぶ学習プログラムが展開できた
- ② 子どもたちのやる気と意欲を高めるプログラムを提供できた
- ③ 学校区を超えた子どもたちの交流、異年齢の交流ができた
- ④ スポ少や部活動と連携したプログラムが提供できた
- ⑤ 放課後児童クラブからの参加がみられた
- ⑥ 高校生、中学生のスタッフとしての協力が生まれた

〔間接的な効果〕

- ① 市内文化体育施設で遊ぶ子どもたちの姿が増えた
- ② わくわく教室が親子のコミュニケーションの場となった
- ③ 地域の大人が特技を発揮する場ができた
- ④ 地域で子どもを見守る意識が高まった
- ⑤ 子どもたちが雲南市の魅力を再発見し、誇りを持って郷土を愛する心が育ってきた

まとめ 「今後の課題」

1. 平日型の放課後子ども教室との役割分担を踏まえた更なる連携
2. 参加する子どもの固定化と新しい参加者の確保対策
3. 学校教職員、地域住民、保護者との共通理解
4. ボランティアスタッフの確保と資質向上
5. 継続的な教室開設への行政からの支援策(継続的・安定的)
6. 全市内の立地条件への対応
(交通手段の確保、吉田・掛合の子どもたちを対象にした教室の開催)
7. プログラムの周知徹底と普及対策(情報の共有化)
8. さらなる地域の教育力再生にどうつなげていくのか

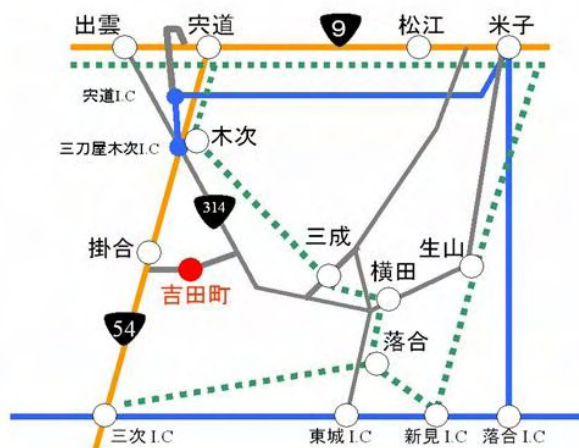


雲南市吉田町田井地区 放課後子ども教室事業

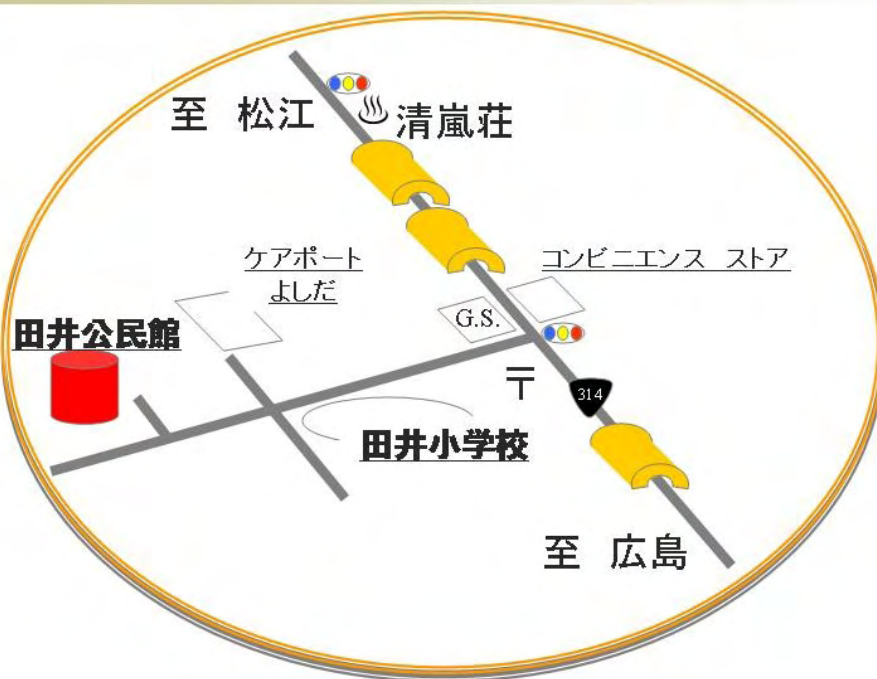
平日型 田井っこ広場

田井っ子広場 事務局 品川 宣子

吉田町の位置



田井公民館の位置



平成20年度田井小学校の児童数

全校：38名

- 1年生： 9名
 - 2年生： 5名
 - 3年生： 3名
 - 4年生： 3名
 - 5年生： 10名
 - 6年生： 7名
 - たんぽぽ学級： 1名
- } 複式学級

田井っ子広場の会場が 田井公民館なのは！

- 平成2年田井公民館設立と同時に田井小・田井中の児童・生徒は放課後を公民館で過ごすようになった経緯がある。
- 子ども居場所づくり事業の開始時、地域・学校・PTAの3者が協議し、「田井っ子広場」の会場は、公民館が最適と判断。
- 「放課後子ども教室事業」が無くなったとしても、田井小が存在する限り、放課後の子どもの居場所は公民館にあり続けると考える。

日常の『田井っこ広場』光景



宿題終わった！さ～遊ぶよ～



ただいま～！寒かった！

- **開設日**：基本的に学校が開校日に開設
- **特設日**：通学合宿・自然塾・交流合宿
夏だよ！ちびっこまつり・そばの種まき・遊びの学校他

【 日常の『田井っこ広場』光景 】

ここんどこ分かんない！
おばちゃん、教えて！



話しかけんで！バスまでに
終わらすけん。



今日は負けないぞ～！



6年生を送る会の話し合い

【 日常の『田井っこ広場』光景 】



まずは、宿題っと！

こたつで
眠たくなって
来ちゃった！



雪遊び楽しい～！



【みんなで蕎麦を育てて食べよう！】



夏休み中に種まき



種まきから、12日目



芽が出ました！



こんなに実がついてるよ！



ハサミや鎌で刈り取り



昔ながらの足踏み脱穀機で脱穀

【4・5年生通学合宿】



持ち寄った野菜を調理！

行ってきまーす！
元気に登校。



コーラスグループ
コール野ばらさんの
定期練習に合流

みんな一緒に
Zzz・・・！



〔 自然塾 & 交流合宿（6年生） 〕



交流合宿 部活見学



交流合宿 ELTさんのお話



交流合宿 中学校舎内見学



自然塾 飯盒炊爨



自然塾 ウォークラリー



自然塾 テント設営

〔 遊びの学校 お茶のお作法 〕



5回シリーズで、吉田様々々会さんに
お作法の一通りを教えて頂きました。

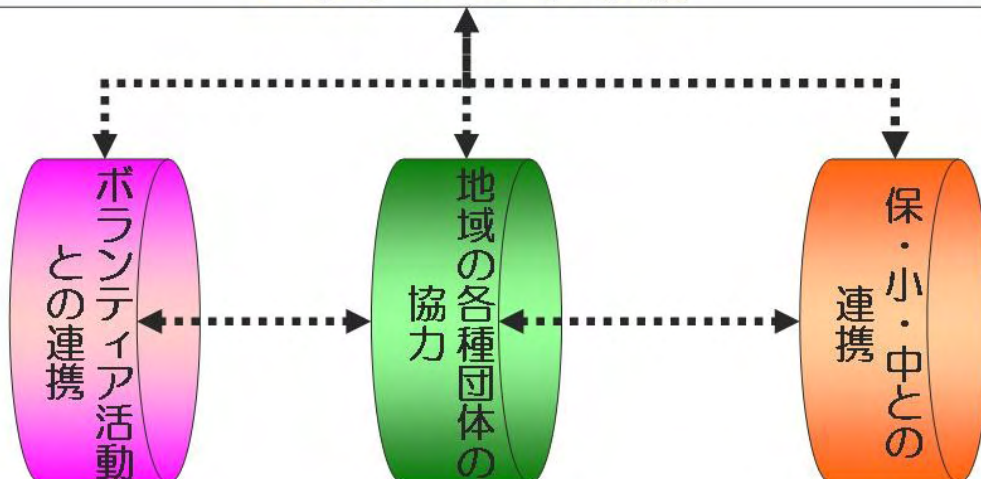


各種団体と協力しての事業！



公民館と地域が一体となって 子ども達の見守り

田井っこ広場



【 保育所・小学校との連携 】

■ ふるさと教育関連事業

- * 蛍学習：学習発表会
- * 斐伊川漁協と保・小：深野川への稚魚放流
- * 世代間交流事業：蕎麦作り・わくわく交流会・いろいろ体験
- * その他の連携事業：子育て学習会・親子ふれあい活動・子どもクリスマス会・遊びの学校他



いろいろ体験

【 これまでの成果と今後の課題 】

成果

公民館を拠り所として、地域がまとまり、
「田井地区の子どもたちを守っていこう！」
「ふるさとのよさを子供たちへ引継いでいこう！」
 という気運が更に高まってきている。

今後の課題

児童数の低下の問題と
 スタッフの高齢化、交流センターへ移行した後、
 『田井っこ広場』の事務的運営はどこでもつ？

週末型教室との連携における問題点

- 会場への交通手段が、保護者対応
(市民バス田井線日・祝運休) (北原線・三刀屋線連絡悪い、本数少ない)
- 地域・学校行事の休日集中
- スポ少との兼ね合い



週末型教室への興味はあるが、参加には至らない1番の原因は、公共交通手段が使えない・確保出来ないのが！

今後の課題 ①

- 子どもの放課後の遊び・学びの機会を提供・展開するには？
- 学校・保護者との関わり・連携をどのように展開していく？
- ボランティアさんの確保は？
- 地域自主組織・交流センターとの関係は？

今後の課題 ②

少子高齢化の波は田井地区にも確実に押し寄せてきてます。現在、田井小学校全校児童38名。

4地区のうち曾木地区には現在小学5年生児童2名に続く子どもが0歳児まで1人もいないといった実情がある。

田井地区から、小学校が消える可能性が高いことを地域住民みんながひしひしと感じています。

昨年4月からはJAの窓口もなくなりました。

いかにしたら、若者を定住させ、子どもの声が明るく響く、元気ある地区になれるのでしょうか？

『田井っこ広場』は、有る意味田井地区の**元気の源的存在**です。

皆さんは、今後どのように放課後子ども教室の活動が展開されるのが良いと考えられますか？

ご清聴ありがとうございました！



田井っ子広場へいつでもお立ち寄り下さい！